

1 学校課題

本校はどの学年も30名前後の小規模校であり、大規模校と比べると個人指導が行き届きやすいが、社会の変化に伴い、児童一人ひとりの個性は多様化し、学習意欲や学習能力の個人差も大きい。

昨年度の算数科における児童の実態については、「学習習慣、学習規律、基礎的な学力の定着が不十分である。」「学力の散らばり（個人差）が大きい。」「自分の考えを自分の言葉で表現することへの苦手意識が高い。」「家庭学習とともに自主的な学習への取り組みを徹底させる必要がある。」などが挙げられている。

このような実態から、本校では算数科において「児童が自主的に学習する意欲と、学習への目的意識を持つこと」「基礎的・基本的な知識及び技能を身につけた上でそれらを用いたり活用したりすること」「自分の考えをわかりやすく表現したり説明したりすること」などが課題であると考えられる。

2 研究主題

「自ら考え、進んで表現できる児童の育成」
～算数的活動の充実を図る指導の工夫を通して～

3 主題設定の理由

(1) 学校教育目標具現化の立場から

「知・徳・体」の調和がとれた人間性豊かな児童の育成を具現化するために、「知」においては基礎的・基本的な学力の定着とともに自分なりに知識を活用し、自らの考えを進んで表現できる児童の育成が大切であると考え。そうした力をつけることで、いずれは教育活動全体に渡って「自ら考え、進んで表現できる児童が育つのではないか。」と考えこの目標を設定した。

(2) 今日の課題から

今日、求められている「確かな学力」の中には、基礎的・基本的な知識・技能の習得は勿論、知識・技能を活用して、自分や人の考えを言葉または文章で表す表現力も一つの大事な要素とされている。知識を蓄えるだけでなく、その蓄えられた知識を活用し、自分なりに考えて課題を解決したり、自分の考えを表現したりする力をつけることが必要になってくる。集団の一員として、明るく、よりよい人間関係を育む基盤となる力を身につけておくためには、相手の考えを理解し、尚且つ自分の考えを相手に的確に伝える力が必要不可欠である。自分なりに考え、相手のよいところを自分の中に取り入れつつ、自分の思いを表現できる力を育てていくことが大切である。

(3) 昨年度の研究から

本校は、平成25年度から算数科を中心に研究を進めてきた。昨年度は「自ら考え、進んで表現できる児童の育成～算数的活動の充実を図る指導の工夫を通して～」をテーマに研究を進め、今年度は、その継続研究に入る。昨年度の研究の成果として、日常的な取り組みとして児童の実態に応じた課題の提示や教材の工夫、「めあて」と「まとめ」の掲示や学級掲示の共通化、ノート指導、発表用ホワイトボードの活用による表現への意欲の向上、少人数での学び合い活動、Teacher's noteの活用と共通理解などが挙げられ、研究を深めることができた。

以上のことから今年度は、昨年度までの研究の成果を生かし、基礎・基本の定着を図るとともに上記の指導を継続しながら、特に表現することに関わる算数的活動の充実を図る指導についての研究を行う。それにより本校児童の課題である学習意欲や学力差、表現力などの解決につながり、児童が目的意識を持って課題に取り組みながら表現力を向上させていけると考え、本研究主題を設定した。

4 研究の具体的内容と方法

(1) 研究内容

- ・理論研究（研究内容に関わって）
- ・授業実践および授業公開の実施
- ・一人一実践の取り組み
- ・児童の実態把握（学習アンケート、NRT検査、Q-U検査等）
- ・学習規律・学習環境づくりのための日常的な取り組み

- ・甲州市「確かな学力」育成プロジェクトとの連携
- (2) 研究方法
- ・全体研究会とブロック研究会（低学年・高学年）を取り入れた研究体制で研究を行う。
 - ・講師を招いて、児童の実態にあった理論研究を行う。
 - ・研究授業をし、授業公開を行っていく。
 - ・児童に、研究テーマに関わるアンケートを行い、実態や変容について把握する。
 - ・NRT 検査や Q-U から、児童の実態を把握し、具体的な指導法を研究する。

年間校内研修計画

相川 和彦

| 研究テーマ | 教科領域 | 担当者 | 学年 | 授業の時間 | TC 要請 |
|--|-----------------|---------------|------------|-------|-------|
| 1 ◇学校課題，研究主題，研究内容・方法，年間計画・日常の取り組み等について ◇Teacher's note の活用 | 算数科 | 研究主任 | 全体 | | |
| 2 ◇学習アンケートについて ◇K-1 3法を用いた分析方法について | 算数科 学級集団づくり | 研究主任 | 全体 | | |
| 3 ◇学習アンケート（1回目）の結果から ◇ブロック研究のテーマ，研究改革，研究授業について ◇K-1 3法を用いた分析方法について | 算数科 学級集団づくり | 研究主任 ブロック長 | 全体 ブロック | | |
| 4 ◇K-1 3法を用いた分析方法について | 学級集団づくり | ブロック長 | ブロック | | |
| 甲州市「確かな学力育成プロジェクト」講演会 | 学級づくり | | | | |
| 5 ◇児童の実態把握（NRT 検査の結果から） ◇K-1 3法を用いた分析方法について | 教科指導 学級集団づくり | 研究主任 | 全体 | | |
| 甲州市「確かな学力育成プロジェクト」講演会 | 授業づくり | | | | |
| 6 ◇指導案形式・板書について | 算数科 | 研究主任 | 全体 | | |
| 7 ◇教育課程の還流報告 ◇理論研究（表現力を高める算数的活動の効果的な指導法について） | 教育課程 算数科 | 研究主任 | 全体 | | ○ |
| 8 ◇一校一実践，一人一実践授業公開について | 算数科 | 研究主任 | 全体 | | |
| 9 ◇研究授業について ◇授業案検討 | 算数科 | 研究主任 ブロック長 | 全体 ブロック | | |
| 10 ◇授業案検討 | 算数科 | ブロック長 | ブロック | | |
| 11 ◇授業案検討 | 算数科 | 授業者 | ブロック | | |
| 甲州市「確かな学力育成プロジェクト」授業研究会 | | | | | |
| 12 ☆研究授業（Ⅰ） | 算数科 | 授業者 | 全体 | 10/25 | ○ |
| 13 ◇授業案検討 | 算数科 | 授業者 | 全体 | | |
| 14 ◇授業案検討 ◇K-1 3法を用いた分析 | 算数科 学級集団づくり | ブロック長 | ブロック | | |
| 15 ☆研究授業（Ⅱ） | 算数科 | 授業者 | 全体 | 11/15 | ○ |
| 甲州市「確かな学力育成プロジェクト」講演会 | 学級集団づくり | | | | |
| 16 ◇研究紀要作成について | 算数科 | 研究主任 | 全体 | | |
| 甲州市「確かな学力育成プロジェクト」講演会 | 学級集団づくり | | | | |
| 17 ◇校内研究のまとめについて ◇ブロック研究の成果と課題 | 算数科 | 研究主任 ブロック長 | 全体 ブロック | | |
| 18 ◇研究の成果と課題，来年度の方向性について ◇学習アンケート（2回目）の結果と考察 ◇ブロック研究の成果と課題 | 算数科 | 研究主任 | 全体 | | |
| 19 ◇研究紀要作成 | 算数科 | 研究主任 | 全体 | | |
| 20 ◇研究紀要作成 | 算数科 | 研究主任 | 全体 | | |

